

技術力と組織力



常務執行役員 宮口智樹

2023年、阪神高速グループでは新しい中期経営計画（2023～2025）がスタートしました。

本計画は、阪神高速グループ理念と阪神高速グループビジョン 2030 の6つのありたい姿を実現するために、この3カ年に取り組むべき具体的施策を計画したものです。

今、阪神高速グループの目の前には、取り組むべきプロジェクトや課題が山積しています。その第一は老朽化が進んだ構造物のリニューアルプロジェクトの推進（サステナブルな阪神高速の実現）、次に災害発生時に緊急輸送道路として機能するレジリエント（強靱）な阪神高速の実現、さらには関西の個性的で多様な都市をインクルーシブ（包摂的）につなぐネットワーク整備の推進、そしてカーボンニュートラル・脱炭素社会の実現に向けた総合的・包括的な取組の推進など、まさに、阪神高速グループのコアコンピタンスの1つである「技術力」発揮の局面が到来しています。

ではこの「技術力」を發揮するための有効な戦略は何でしょうか。

それはひとえに技術力發揮のベースとして、優れた技術者（プロフェッショナル人材）の存在・育成と産官学連携を含めた組織力の向上に尽きるのではないかと考えます。

昔から大事を成すためには、「天の時・地の利・人の和」を得なければならないと言われていますが、これは戦略が成功する3条件と言われているもので、中国・戦国時代の思想家である孟子が残した言葉です。この金言ともいえる言葉が技術力發揮のための3条件であり目の前の課題に打ち勝つ戦略とも言えるのではないかと思います。

前述したように取り組むべきプロジェクトや課題が山積している今、まさに技術力發揮のチャンス、「天の時」です。また、我々には技術力を發揮するフィールドがあり、グループ内には多種多様な技術者がいます。技術力を發揮しやすい立ち位置にいる「地の利」があると言えるのではないのでしょうか。ただし、「地の利」を得つづけるためには、今後も優れたプロフェッショナル人材の育成継続が絶対条件です。

まず2つの条件は揃っています。最後に重要なのは「人の和」です。

孟子はこう言っています、「天の時は地の利に如かず。地の利は人の和に如かず」と。個人レベルでの取り組みでは限界があり、社内あるいはグループ内の連携が重要なのは当然です。ただ、阪神高速グループ単独での取り組みにも限りがあり、建設事業における共同事業者やコミュニケーション型共同研究など一緒に取り組むパートナー企業、そしてあらゆる場面でアドバイスを頂く学識の先生方との産官学連携が極めて重要だと考えます。グループ内にとどまらず、産官学を含めた「組織力」が成否を分けるのではないのでしょうか。

「天の時」「地の利」「人の和」はいずれも重要。ただ、一番重要なのは「人の和」です。

今後もそれを肝に銘じて、目の前に立ちはだかるプロジェクトや課題を踏破し、皆さんとともに業務に邁進したいと思います。